

1. はじめに

本資料は、認定NPO法人Living in Peace（以下LIP）が実施しているキャリアプログラム「おしごとリップ」のマニュアルです。私たちは、2011年から児童養護施設で暮らす子どもたちに、さまざまな職業について知ってもらう取り組みを続けてきました。こうした取り組みを通して、プログラムを体験した子どもたちの変化を感じる一方、LIP単体で事業に取り組むということに対するリソースの限界を感じてきたことも事実です。

このような課題を解決するため、どのような方でも「おしごとリップ」をベースにしたキャリアプログラムを実行できる状態をつくり、多くの方々の協力を得て世の中に広くこの事業を展開していきたいという思いから、マニュアルを作成するに至りました。プログラムの目的や概要、プロセスや実施する上での注意点等、実例を踏まえて紹介を行っていきますので、皆様が実際にプログラムを実践される際のガイドブックとして一読を頂けると幸いです。

1-1-1 プログラムの背景と目的

■課題・背景

児童養護施設で暮らす子どもたちの多くは、高校卒業と同時に施設からの退所を余儀なくされます。この時点で多くの子どもたちは就職という選択を行います。社会的養護下にある子どもたちは、最近でこそ進学率が伸びてきたものの、一般家庭の子どもと比較するとその割合はまだ低いという事実があります。また、進学や就労といったステージに進んだ場合に、孤独感や資金的困難、また未来への不安感から、生活が不安定になりがちであり、結果として貧困状態に陥りやすいという現実があります。主な原因として、以下の2点があります。

①職業選択の知識が乏しい

子どもたちは将来の進路をより早期に固める必要があるにも関わらず、施設職員以外の大人と接する機会が少なく、世の中の職業やキャリアパス、また職業観を知る機会が限られています。これまで行ってきた支援を通して、こうした現実が、職業選択の幅を狭め、またサービス業や福祉関係といったある一定の職業に偏った選択*1に繋がっていることが明らかになってきました。

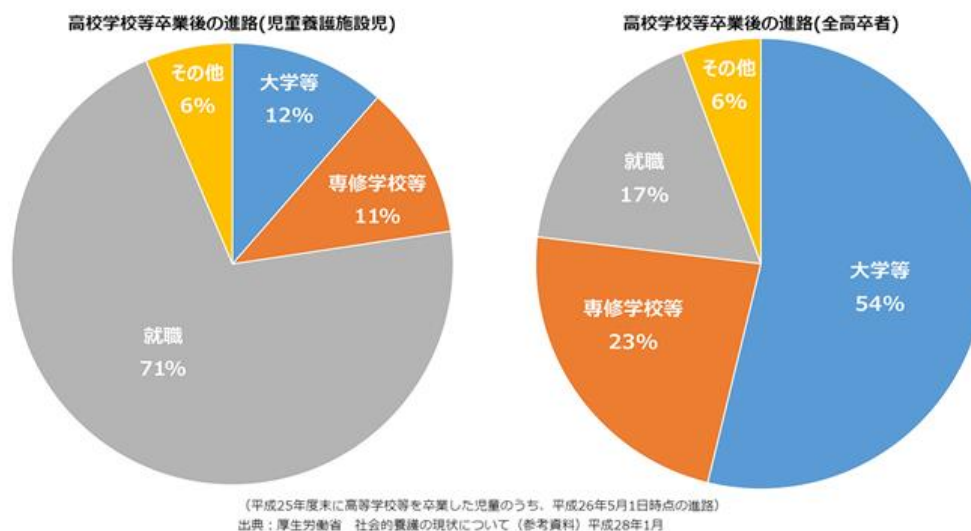
②自立に向けた心の準備ができていない

社会的養護下にある子どもたちは、心に傷を負うような厳しい生育環境に置かれたために自己肯定感が低いことや、周囲の児童養護施設入所者の学歴達成が低いことから、将来への明るい展望を持ちにくい傾向があります。さらに、18歳になると退所することになりますが、親からの援助も期待できないことが少なくありません。また、子どもたちをケアする役割である児童養護施設の職員は恒常的に人手不足の状態であり、日常のケアに加えて就職・進学に対する手厚いサポート等の自立支援まで十分に行うことが困難な状況にあります。こうした理由が幾重にも重なって自立に向けた心の準備が十分でないまま施設の退所を迎えてしまい、それが高い失業率や低い

定着率といった就業の不安定さに繋がっていると考えられています*²。

*¹ 出典：東京都における児童養護施設等出身者の実態調査 2017（東京都）

*²



■目的

こうした課題の解決のため、リービングケアとして施設を退所する直前に準備するのではなく、インケア*¹の段階から時間をかけて自立に対する前向きな意欲を育み、心の準備をすることが重要です。「おしごとリップ」は、そのきっかけの一つとして、多様な職業を紹介するキャリアセッションを子どもたちへ提供するプログラムです。

子どもたちの未来の選択肢を増やすことによって、目標を持ちやすくすること、またプログラムを通して自主性や関係構築力、自己効力感といった非認知能力*²を高めることを目指しながら、子どもがキャリアについて興味関心を持ち、自ら将来図を描き、前向きに行動する意欲や力を高めていきます。

*¹ 施設入所中の日常生活支援を中心とするケア。生活指導、学習指導、金銭管理の意識づけ、対人関係の支援などがある。

*² IQ や学力テストで計測される認知能力とは区別される、忍耐力、社会性、意欲的といった、人間の気質や性格的な特徴のようなもの。将来の成功に大きく影響することが明らかになっている。

1-2-1 キャリアプログラムの特徴と成果

■コンセプト

「おしごと」と Living in Peace の頭文字の「LIP」を合わせると「トリップ(旅)」という言葉が現れることから、プログラムを通して様々な仕事の世界を冒険してほしい、仕事の疑似体験(主にワーク)を通じた経験をたくさん積んでほしいという思いが込められています。

■特徴

① 自立に対する心の準備を行う

課題・背景の2点を解決するため、下記の3点を軸に据えたプログラムを設計しています。

- ・非認知能力の強化

- 1) 自立にあたり非常に重要となる、「粘り強さ」「誠実さ」「人間関係構築」といった非認知能力を伸ばすことを重視しております。
(職業の知識は陳腐化するが、非認知能力は一度身についたら失われず、自立後に必ず役立つため)

- ・インケアの段階から実施

- 1) 退所が迫ってから行うのではなく、自立に向けてじっくり心の準備ができるように時間をかけて提供しております。(そのため、インケアの段階からと銘打っている。)
- 2) 中学校1年生から参加できるとより効果が高まります。

- ・長期的に実施

- 1) 非認知能力を育むには子どもとの関係性構築が不可欠であること、将来の選択肢を複数知ってほしいことから、単発ではなく1タームを1年間(10回前後の想定)として実施しております。
- 2) 数年間、継続して参加してもらえるとより効果が高まります。

このプログラムは、良好な関係性の上に成り立つものです。そのため、子どもたちと運営メンバーが一定の時間をかけて関係を築き、子どもたちが安心できる環境を作りながら職業観や世界観を広げてもらうことを大切にしています。そのため、年間を通したプログラム構成となっており、子どもたちには可能な限り毎回のセッションに参加してもらうよう、日程調整においても協力をしてもらいます。具体的には、部活と親子交流の予定以外は、プログラムへの出席を優先してもらうよう、お願いしています。

② 幅広い職業の選択肢を示す

幅広い職業の選択肢を知る機会を作るため、職業の業界を7つに分類し(LIPが独自に作成)、通年プログラムではすべての業界の講師を招いて、業界知識や具体的な仕事内容、また自身のキャリアについて語っていただきます。

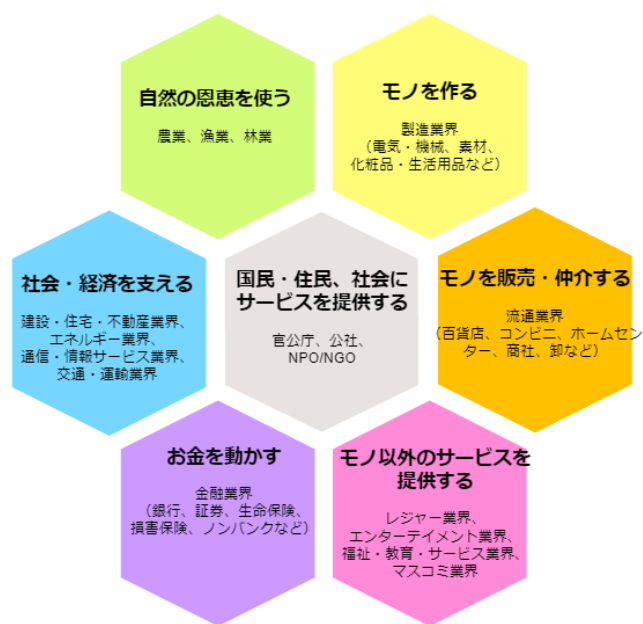


図1：業界7つの分類

座学だけでなくワークを通して職業理解を深め、考える力や発信力を身につけ、他者との関係性向上・自律性・有能感の醸成を目指します。さらに定期的な面談を実施し、個人の興味・関心に合わせた社会見学を調整したり同行したりするケースもあります。

■ 具体的成果

プログラムの継続的な実施は、子どもたちのキャリアリテラシー向上に繋がっています。参加した子どもたち、自立支援コーディネーターからは下記の声をいただいています。

① プログラムに参加した子どもたち

- ・自分が知らなかったり、興味がなかったことでも、少しずつ興味が出てきた。(高校生)
- ・ワークを通して少しでも仕事を体験できるところが、これから変化するかもしれない将来の自分に役立つと思った。(高校生)
- ・各業界の専門家から直接話を聞くことで、インターネットで調べるよりも詳細を知ることができた。(高校生)
- ・知らない仕事がたくさんあることを知って、興味がわいた。(中学生)
- ・自分の意見だけでなく、他の人の意見も聞けるようになった。(高校生)

② 自立支援コーディネーター

- ・人は人、自分は自分というところがあった子が、おしごとリップのグループワークを通して協調性が高まった。
- ・人前で自分の意見を言えるようになってきた。

- ・子どもたちが活動自体を楽しみにしていた。
- ・職業選択の幅が広がったことで仕事への視野も広がり、将来を考えるきっかけになった。
- ・メンバーが長期的に関わってくれることで、信頼関係を築けるようになったり、他者との接し方を学んだ。

1-3-1 年間プログラム設計

「おしごとリップ」はキャリアセッション回と面談回で構成されています。

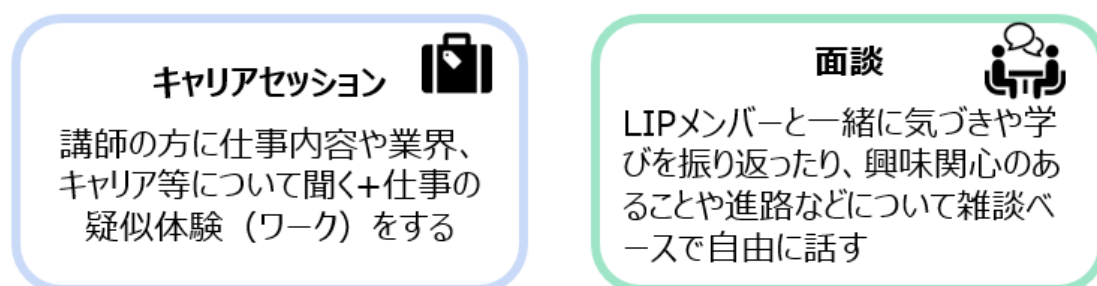


図2：2つのタイプ

1回のセッションにつき1つの業界を紹介するため年間を通して7回のセッションを行います。またセッションとは別に、子どもたちにプログラムの全体像を紹介し、参加を促す説明会、プログラムの途中及び全てのセッション終了後に行う振り返り面談や修了式を一連の流れとして実施します。

また、プログラムは大きく分けて3つのフェーズに分けて企画・運営を行います。

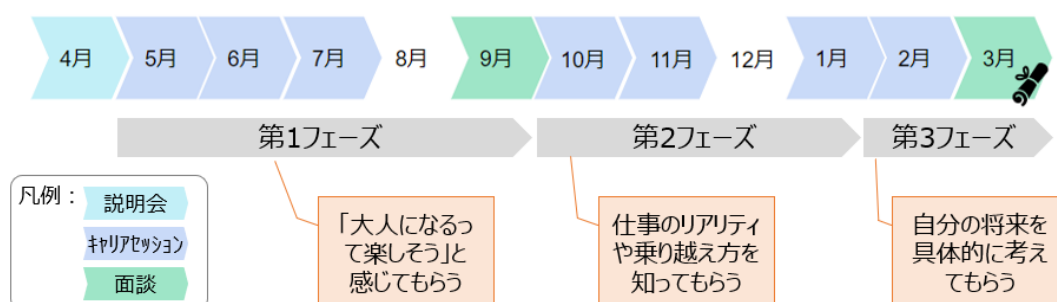


図3：おしごとリップ年間スケジュール例

第1フェーズ：5-9月の第1フェーズでは、「大人になって楽しそう」をテーマに進めます。自立後に前向きなイメージを持ってもらい、将来を考えることに対してモチベーションを高めることを目標としています。そのため、できるだけ子どもたちに身近で、分かりやすい業界を選定し、企画を行います。

第2フェーズ：10-1月の第2フェーズでは、より仕事のリアリティを知ってもらうことを目的としています。「楽しい」だけでなく、仕事の「厳しい面」も組み込んだセッションを行います。ただし、厳しさや大変さを前面に押し出し過ぎると、高まったモチベーションが下がってしまう可能性があるため、どのようにその苦難を乗り越えたのかや、そうした状況に置かれた場合に支えとなるやりがいなども、併せて伝えていきます。第1フェーズの終了後に行う振り返り面談で、子ども達と面談を行い、子どもたちのモチベーション度合いに合わせた内容を組み立てていきます。

第3フェーズ：最後の第3フェーズでは、子どもたちが自分の将来を具体的に考えることを目的としています。業界分類の1つである金融業界をこのフェーズに組み込み、お金のリテラシーを高める金融教育を含めるようにしています。また、年間のプログラムを振り返る面談を行うことで、子どもたち自身の変化や課題を自分事として考え、捉えてもらうと同時に、支援者側からの目線で、自立に対して前向きな意欲をもつ状態をつくることのできているかどうかの確認を行います。

| | 狙い | 形式 | 想定する業界、やること |
|-----|--|---|---|
| 4月 | 仕事の全体像を知る | 説明会+体験会 | おしごとリップ未参加の中高一生向けに、おしごとリップを説明する。体験内容として、仕事の全体像を知ってもらう |
| 5月 | 仕事に関心を持ってもらい、大人になるのは楽しそうだと感じてもらう | キャリアセッション (講師に話をしてもらう &お仕事を疑似体験するワーク) | 製造業の仕事を知る。 どのような楽しさ、キャリアパスかを学ぶ。 |
| 6月 | ①仕事に対する興味関心を持ってもらう ②仕事をする楽しさを知ってもらう | | 小売・卸業の仕事を知る。 どのような楽しさ、キャリアパスかを学ぶ。 |
| 7月 | | | サービス業の仕事を知る。 どのような楽しさ、キャリアパスかを学ぶ。 |
| 9月 | ①振り返り ②自己理解を深める | 面談+ミニ講義 | 自己理解を深めるための考え方(理論)を紹介する。 これまでの振り返り、面白かったこと・関心事等を面談で話す。 |
| 10月 | 仕事のリアリティや乗り越え方を知ってもらう | キャリアセッション (講師に話をしてもらう &お仕事を疑似体験するワーク) | インフラの仕事を知る。 どのような楽しさ・やりがい・苦労があるか、適性がある人はどんな人かを学ぶ。 |
| 11月 | ①仕事をする楽しさ、やりがいを知る ②仕事の大変さと乗り越え方を知る | | 食に関する仕事を知る。 どのような楽しさ・やりがい・苦労があるか、適性がある人はどんな人かを学ぶ。 |
| 1月 | ③向き不向きに向き合う | | 公務員の仕事を知る。 どのような楽しさ・やりがい・苦労があるか、適性がある人はどんな人かを学ぶ。 |
| 2月 | 自分の将来を具体的に考えてもらう | お金の教育事業によるプログラム実施 | 金融教育を通して、お金の重要性、計画的な扱い方を学ぶ。 |
| 3月 | | 修了式+ミニ講義+面談 | 1年間の振り返りとして、子ども達へのフィードバックを行う。面談 ¹⁸ を行う。これからの時代(人生100年、VUCA、少子高齢化など)の生き方についてミニ講義。 |

図4：おしごとリップ年間スケジュール詳細